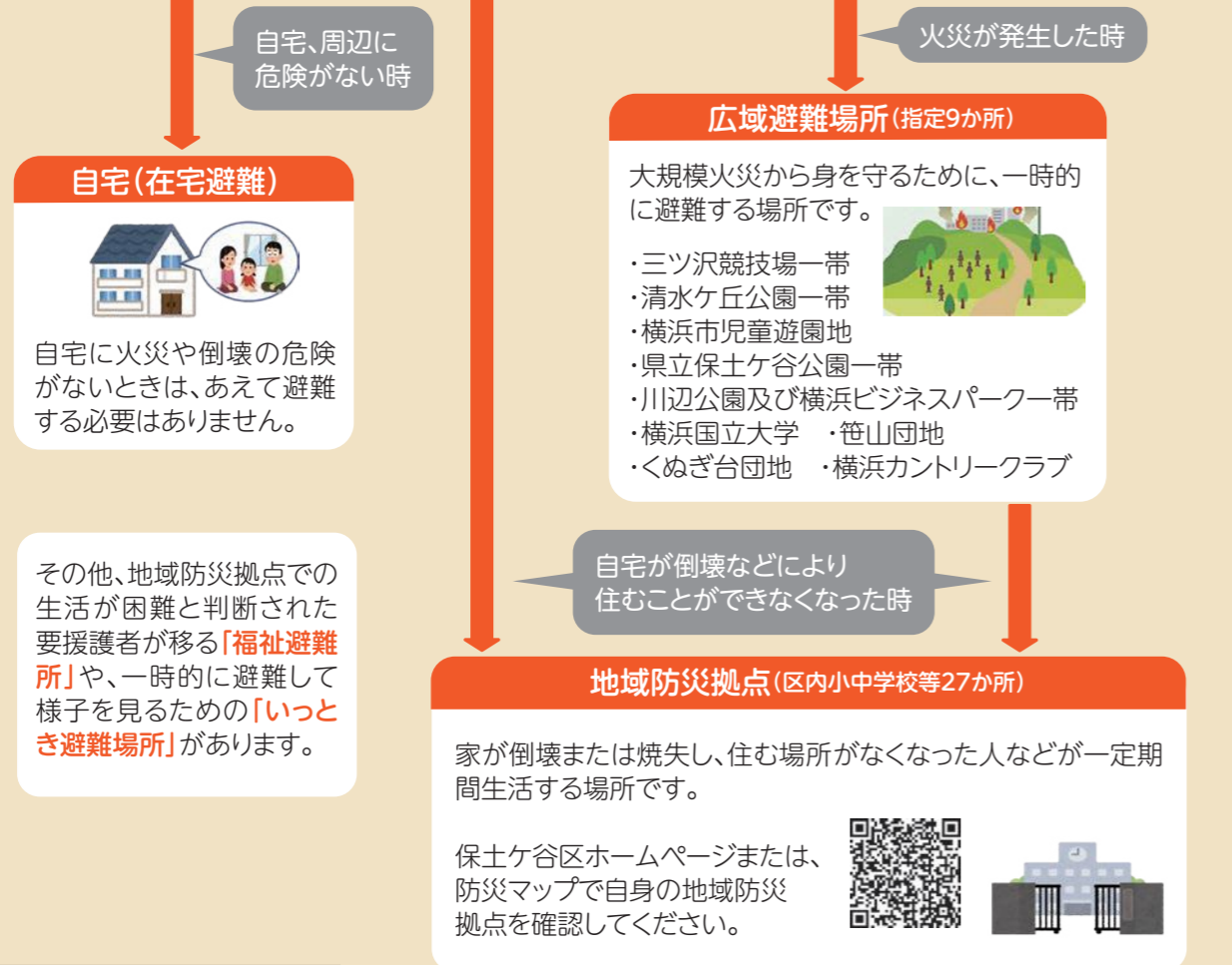


在宅避難できないときの避難行動を確認しましょう

家庭で備えをすることによって、周辺に危険がなければ在宅避難を行うことができます。しかし、災害時は何が起るかわかりません。避難が必要になった時に備え、災害時の避難行動を確認しましょう。

震災時の避難行動

地震発生!



自宅(在宅避難)



自宅に火災や倒壊の危険がないときは、あえて避難する必要はありません。

その他、地域防災拠点での生活が困難と判断された要援護者が移る「福祉避難所」や、一時的に避難して様子を見るための「いつとき避難場所」があります。

広域避難場所(指定9か所)

大規模火災から身を守るために、一時的に避難する場所です。

- ・三ツ沢競技場一帯
- ・清水ヶ丘公園一帯
- ・横浜市児童遊園地
- ・県立保土ヶ谷公園一帯
- ・川辺公園及び横浜ビジネスパーク一帯
- ・横浜国立大学 笹山団地
- ・くぬぎ台団地 横浜カントリークラブ

自宅が倒壊などにより住むことができなくなった時

地域防災拠点(区内小中学校等27か所)

家が倒壊または焼失し、住む場所がなくなった人などが一定期間生活する場所です。

保土ヶ谷区ホームページまたは、防災マップで自身の地域防災拠点を確認してください。



風水害時の避難行動

- 避難指示が発令された時は速やかに避難しましょう!
- 避難のサインがみられた時は自らの判断で避難しましょう!

- 避難指示発令
- 避難のサイン
 - ・河川氾濫のおそれ
 - ・崖崩れの前兆
 - 小石がパラパラ落下
 - ・斜面に湧水、亀裂が発生
 - ・下水道などからの浸水

- ★危険がせまる前に早めに避難をしましょう!
- ★外に出るとかえって危険な場合は、屋内の高いところや、崖から離れた安全な部屋などに移動しましょう!

※浸水想定区域や風水害時に開設される避難場所については、事前に保土ヶ谷区ホームページなどをご確認ください。



Shelter at home

保土ヶ谷区

在宅避難

リーフレット

～災害時も日常に近い生活を送るために～

在宅避難は、プライバシーの保たれた住み慣れた環境で生活できるため、ストレスの少ない避難行動です。物を持ち出す必要もなく、冷蔵庫の食料もそのまま使うことができます。できるところから在宅避難の準備を始めましょう!

避難先による環境の違い

避難所のスペースや設備には限りがあります。自宅が安全であれば、在宅避難の方がふだんの生活に近い環境で過ごせます。



- 1人当たりのスペース
- プライバシーの確保
- 水・食料
- トイレ
- ペット

震災時の避難所(地域防災拠点(区内小中学校等27か所) 風水害時の避難所(地区センターなど)	在宅避難(自宅)
狭い 確保できるスペースは一人当たり2㎡(縦2m×横1m)程度です。	いつもどおりの生活
難しい 多くの避難者と一緒に過ごすことになります。	いつもどおりの生活
避難所の備蓄品など クラッカー、保存パン、水など 限られた種類の備蓄品しかありません。 ※避難の際は自宅の備蓄品を持参してください。	好みに合った備蓄品 好みに応じて自分で準備した備蓄品で生活できます。 ※在宅避難者も地域防災拠点で物資や情報を得ることができます。
屋外の仮設トイレ 屋外に設置されている共用の仮設トイレを使用します。	自宅トイレ いつもどおり使用できます。 ※断水、排水管損傷時はトイレパック等を使用します。
屋外での飼育 避難所では多くの避難者と一緒に過ごすことから、原則、ペットを避難所内に入れることはできません。	いつもどおりの生活



在宅避難の準備の基本!

3つのポイントをおさえよう!

point 1

備蓄は『最低3日分、できれば7日分』

備蓄はローリングストック法で!!

消費期限にあわせて定期的に古いものから消費し、消費した分を補充するという循環型の備蓄方法です。



check list /

○ 飲料水・食料品

- 飲料水 (1人1日3ℓ×家族の人数)
- 食料品 (缶詰、レトルト食品、フリーズドライ食品など)

○ 日用品

- トイレトペーパー
- 歯磨きセット
- カイロ
- LEDランタン
- ウェットティッシュ
- タオル類
- ラップ
- 携帯ラジオ
- トイレパック
- 生理用品
- カセットコンロ
- モバイルバッテリー
- ポリ袋
- 救急セット
- カセットボンベ
- 乾電池
- 水のいらないシャンプー
- 常備薬
- ライター

○ 乳幼児のいる家庭の備え

- 紙おむつ
- 哺乳瓶消毒グッズ
- おしりふき
- 粉ミルク
- おやつ
- 離乳食
- 哺乳瓶

お湯を沸かす必要のない液体ミルクがあると便利です

○ 要介護者のいる家庭の備え

- 介護食
- 補助具などの予備
- 大人用紙おむつ

○ ペットのいる家庭の備え

- ペットフード
- ペット用トイレシート

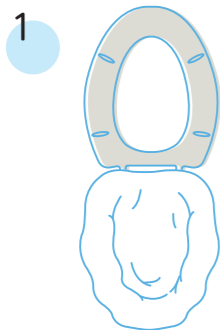
point 2

トイレパックの使い方

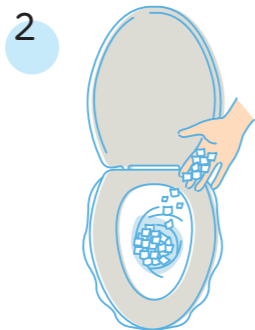
3人家族の場合『1日5回分×3日分×3人=45パック』

例:凝固剤タイプ(汚物袋、凝固剤 各1袋ずつ)

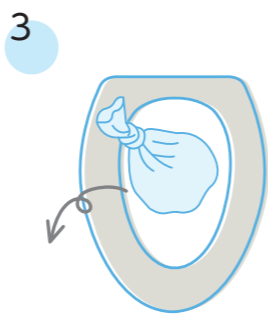
人の排泄は1日5回程度といわれています。家族の必要数を予め把握しておきましょう。



1 付属の汚物袋を被せた後に、便座を下げて固定します。



2 用を足した後、付属の凝固剤を入れます。



3 使用後は空気をしっかりと抜き、袋を縛って「燃やすごみ」で処分します。

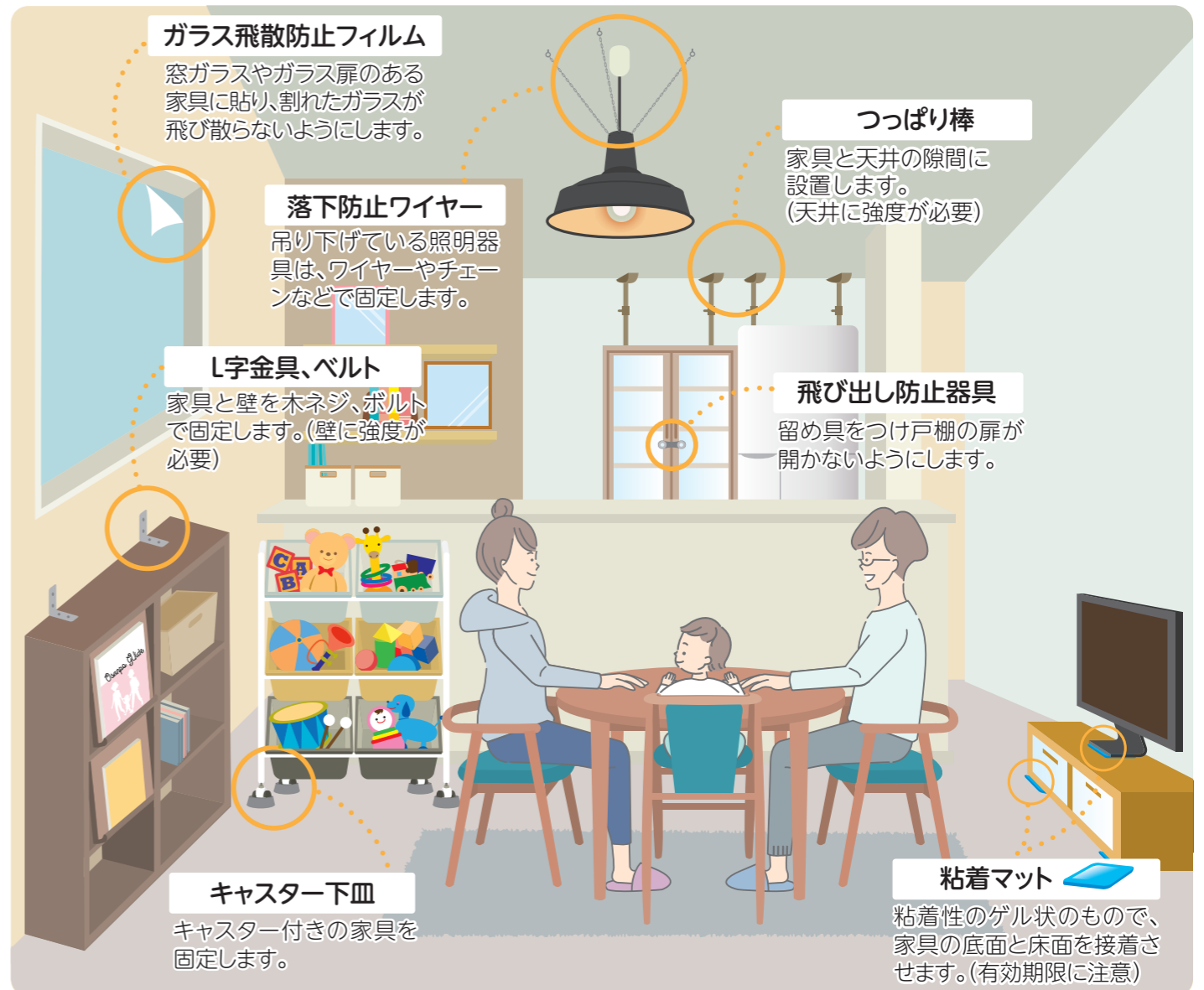
※トイレパックがない場合

汚物袋は45ℓ程度のゴミ袋、凝固剤はちぎった新聞紙などで代用できます。

point 3

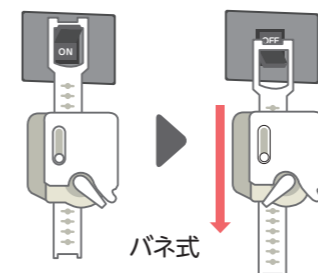
災害に強い家に!

家が倒壊しなくても、家具が倒れたり、ガラスが割れたりすると、在宅避難の妨げとなります。家の中の対策をしっかりと行い、安全に在宅避難ができる環境を整えましょう。



通電火災を防ぐために

感震ブレーカー



揺れを感知すると自動的に電気の供給を遮断し、電気火災を防ぐ器具です。横浜市では一部の地域を対象に購入費用の一部を助成していますので是非ご活用ください。



マンションに住む人は? ~2つの注意点~

注意点1 水の確保

停電でエレベーターが停止した場合、水などの重いものを上層階まで運ぶのは大変です。日頃の備えを欠かさないよう心がけましょう。



注意点2 トイレの水

上層階での排水が下層階で溢れる可能性があります。排水管の安全が確認できるまでは、トイレパックを使用しましょう。

